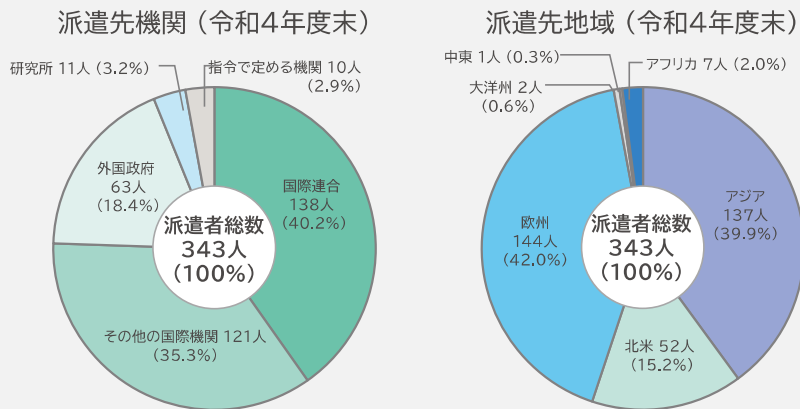


国際協力・国際交流の推進

行政官の相互派遣等による国際交流や諸外国の人事行政の発展に向けた国際協力に積極的に取り組んでいます。

海外への職員の派遣

毎年多くの職員が国際機関や外国政府に派遣され、国際協力に取り組んでいます。



※ 数値は端数処理の関係で合致しないものがある。



▲派遣職員の業務風景
(中央列、左から4人目が派遣職員)

ASEAN諸国との協力、開発途上国に対する支援

ASEAN公務協力会議(ACCSM)は、ASEAN諸国における公務員制度・公務員人事管理に関する地域間協力を推進するネットワークであり、日本、中国及び韓国の三国を含めたACCSM+3において、人事院は、我が国の代表として参画し、各種協力事業の実施を支援しています。

令和5年9月に、人事院は“The Future of Civil Service”(公務の未来)をテーマとした国際シンポジウムを開催し、各国の人事行政上の取組の共有と課題に対する議論を行うなど、ACCSM+3との協力関係を深めています。

また、ガバナンスの向上が課題である開発途上国からは、日本の公務員制度を学びたいとの要望が多く、人材育成のための研修の実施に協力しています。



▲ASEAN+3 公務協力会議(ACCSM+3)
国際シンポジウム

日中韓人事行政ネットワーク

日中韓三国の人事行政機関である、人事院、中国国家公務員局及び韓国人事革新処は、日中韓協力の一環として人事行政分野における連携及び相互交流を進めるため各種協力プログラムを実施しています。



▲日中韓三国共催シンポジウム

人事行政分野での人的交流・相互理解の促進

外国政府職員を招いた講演会や意見交換会の開催など、諸外国政府との交流を通じて人事行政分野における最新の実情などを把握しています。

また、日米両国の相互理解や協力関係を深めるため、若手・中堅の米国連邦政府職員が日本の各府省等で約1年間研修するプログラム(マンズフィールド研修)を実施しています。



▲第27期マンズフィールド研修員